

03.12.03

まちづくりと政策イノベーション 発表

人口還流現象の実態とその要因に関する研究
- 兵庫県淡路島を事例に

政策メディア研究科 修士課程2年

片桐 暁史 / akifumi@sfc.keio.ac.jp

本日のテーマ

アンケート

発送・回収状況

集計途中報告

論文構成

やってきたこと

章立て

今後の予定

アンケート分析

ヒアリング

論文執筆

研究の目的

問題意識

中山間地域・・・国土面積の7割
農業生産の4割
若年層流出による過疎・高齢化

人口還流の正確な実態把握は
わが国の地方圏の将来に重要課題

研究の意義

既往研究・・・国調、住基
(×) Uターンの正確な実数把握
同窓会名簿分析により
市町村単位での帰還先の特定
淡路島・・・
人口移動を左右する様々な要素

研究の目的

兵庫県淡路島を事例に、
人口還流の実態と要因を解明

どのような人が、
どのような条件の下で帰還し、
どのような役割を果たしているか



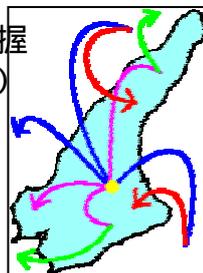
研究の流れ

(0) 淡路地域の概況整理

国勢調査、住民基本台帳、事業所統計
現地巡検、役場ヒアリング、既往関連研究サーベイ

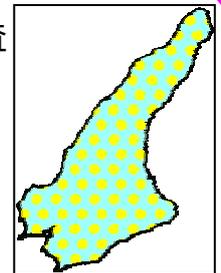
(1) Uターン動向把握 (同窓会名簿整理)

マクロな把握
コホート間比較
男女間比較
国勢調査との比較



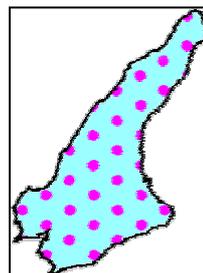
(2) アンケート調査

属性分析
年齢・性別・家族
要因分析
時期・誘引・阻害
今後の意向など



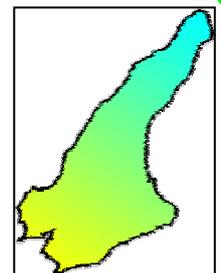
(3) ヒアリング 調査

ケーススタディ
ミクロな把握
地域性



(4) 考察

人口還流の
実態・要因
あるべき条件と
果たせる可能性



アンケート調査 発送・回収状況

発送

発送日 11月10日(月)着
返送期日 11月17日(月)

発送828部 (到着804部)



趣旨文1枚



質問票16頁



返信封筒

回収

返送189部 (有効183部)
回収率22.8%

12月1日時点



アンケート調査の対象

アンケート調査の対象・比較法

16期生 (1945年生まれ)
淡路島在住者 (帰還者)

コーホート間
の比較

帰還・非帰還
の比較

16期生 (1945年生まれ)
淡路島非在住者 (非帰還者)

コーホート間
の比較

26期生 (1955年生まれ)
淡路島在住者 (帰還者)

コーホート間
の比較

帰還・非帰還
の比較

26期生 (1955年生まれ)
淡路島非在住者 (非帰還者)

コーホート間
の比較

41期生 (1970年生まれ)
淡路島在住者 (帰還者)

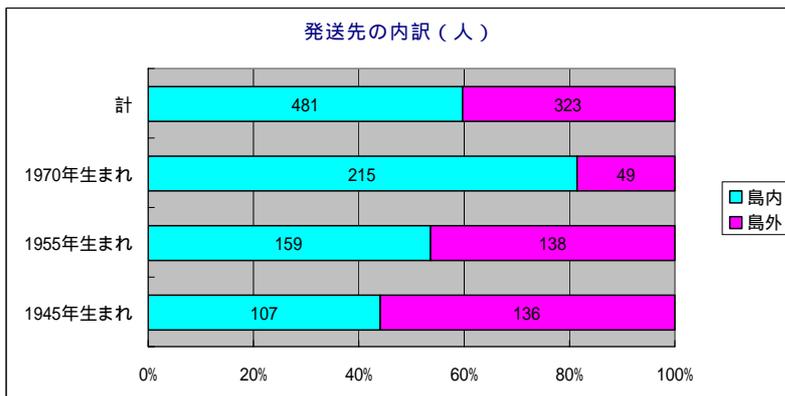
帰還・非帰還
の比較

41期生 (1970年生まれ)
淡路島非在住者 (非帰還者)

発送先・返送者の内訳

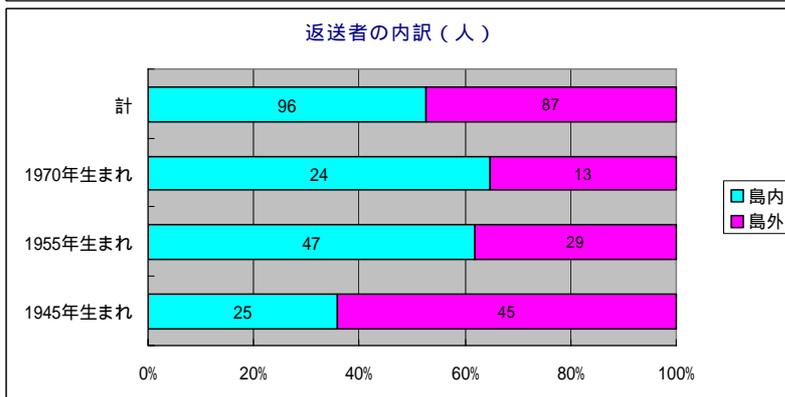
アンケート発送先の内訳

	島内	島外	計
1945年生まれ	107	136	243
1955年生まれ	159	138	297
1970年生まれ	215	49	264
計	481	323	804



アンケート返送者の内訳

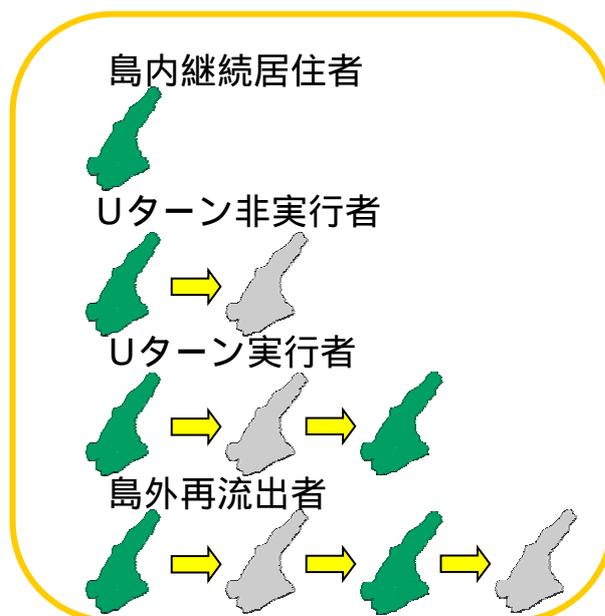
	島内	島外	計
1945年生まれ	25	45	70
1955年生まれ	47	29	76
1970年生まれ	24	13	37
計	96	87	183



回収率・居住パターン

回収率

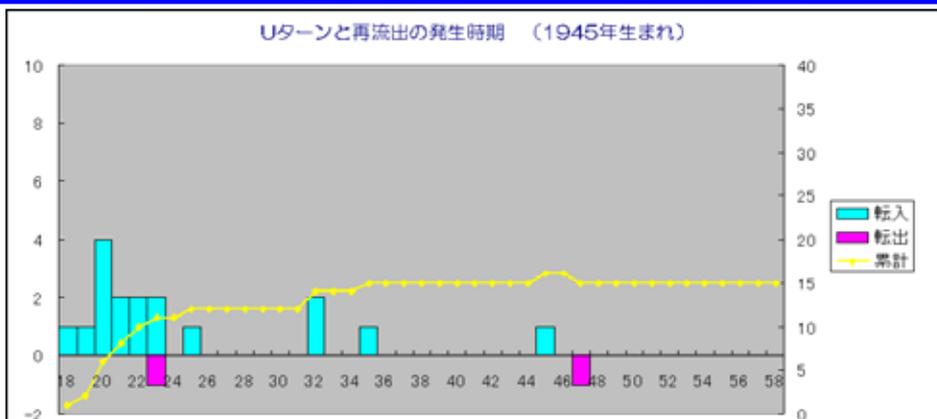
	島内	島外	計
1945年生まれ	23.4	33.1	28.8
1955年生まれ	29.6	21.0	25.6
1970年生まれ	11.2	26.5	14.0
計	20.0	26.9	22.8



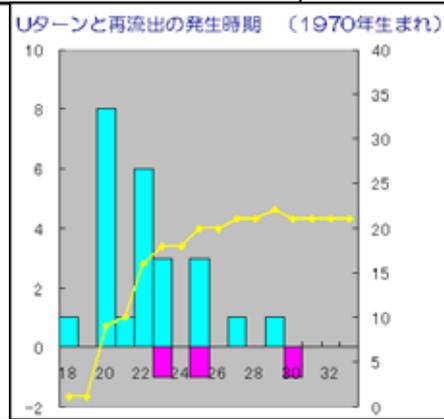
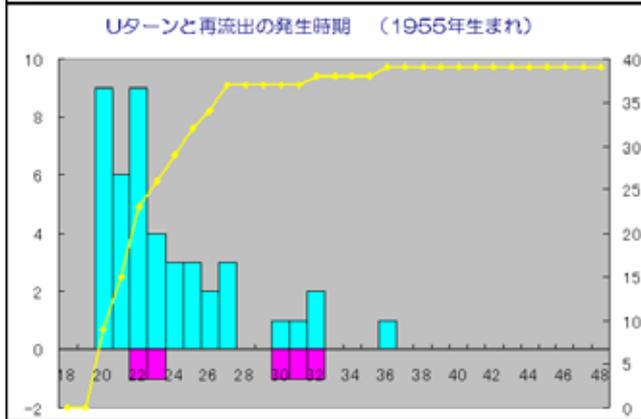
居住パターンによる内訳

	島内継続居住	Uターン非実行	Uターン実行	島外再流出	その他	計
1945年生まれ	11	38	14	5	2	70
1955年生まれ	7	23	40	6	0	76
1970年生まれ	2	10	21	3	1	37
計	20	71	75	14	3	183

Uターンと再流出の発生時期

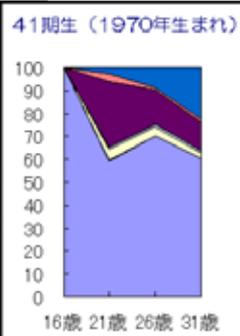
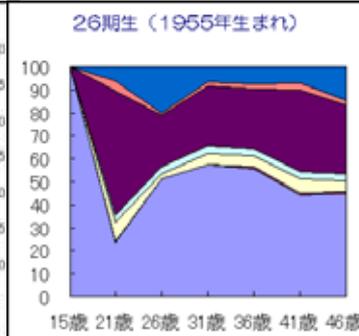
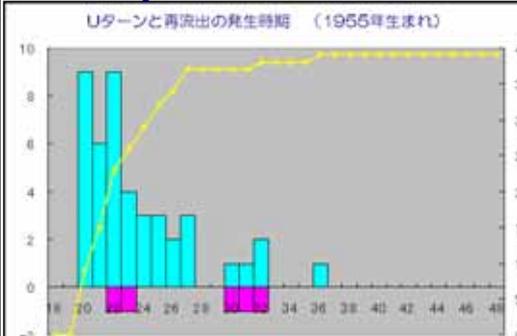
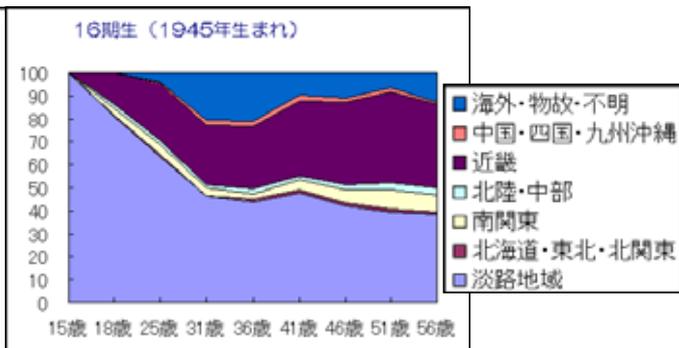
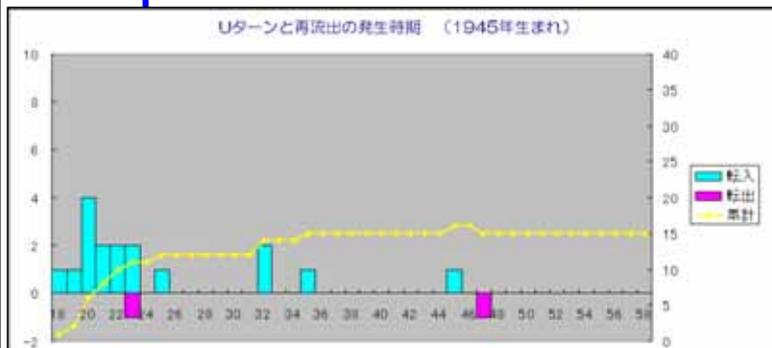


アンケート結果
より作成

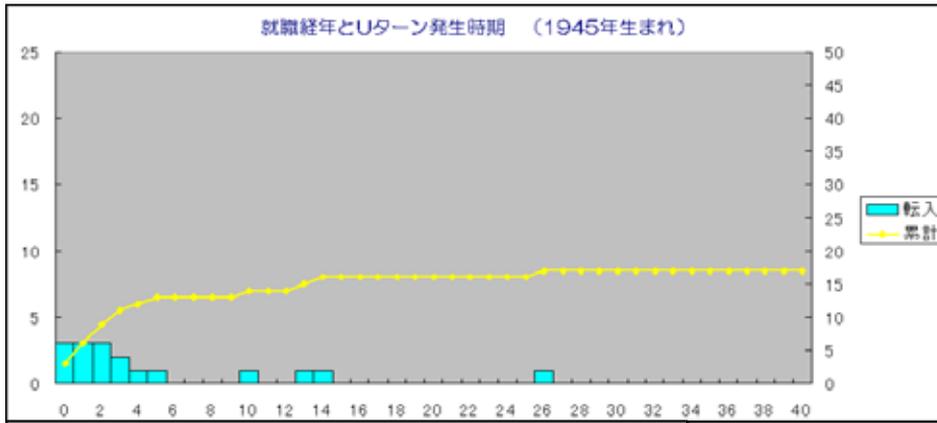


同窓会名簿分析と比較

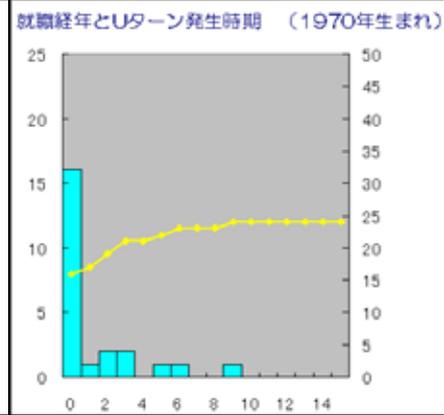
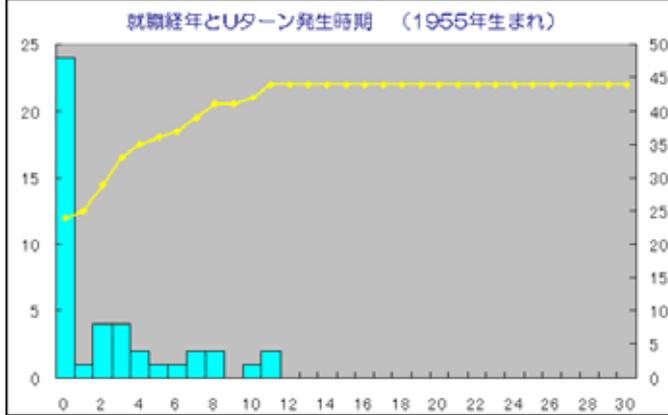
同窓会名簿分析による他地域への流出動向図との比較



就職経年とUターン発生時期

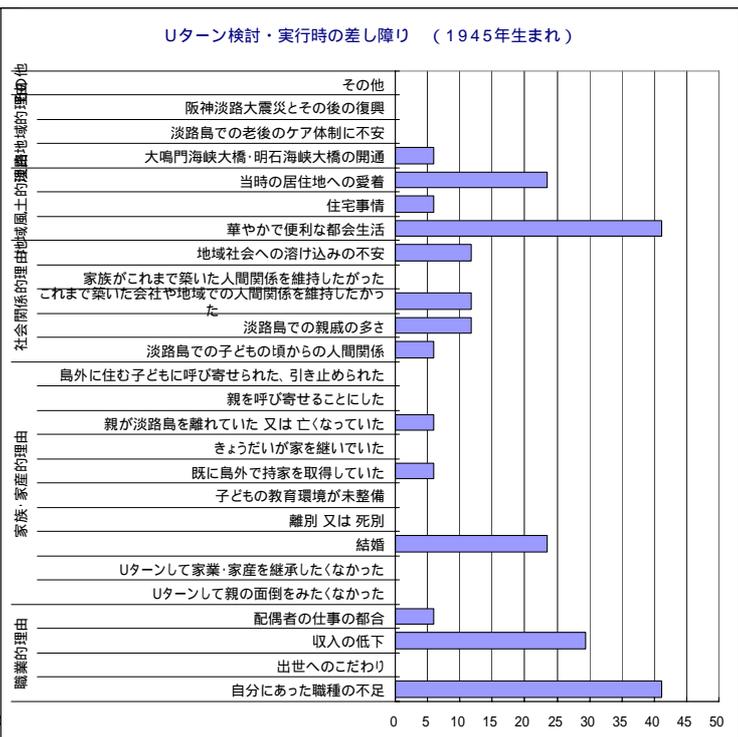
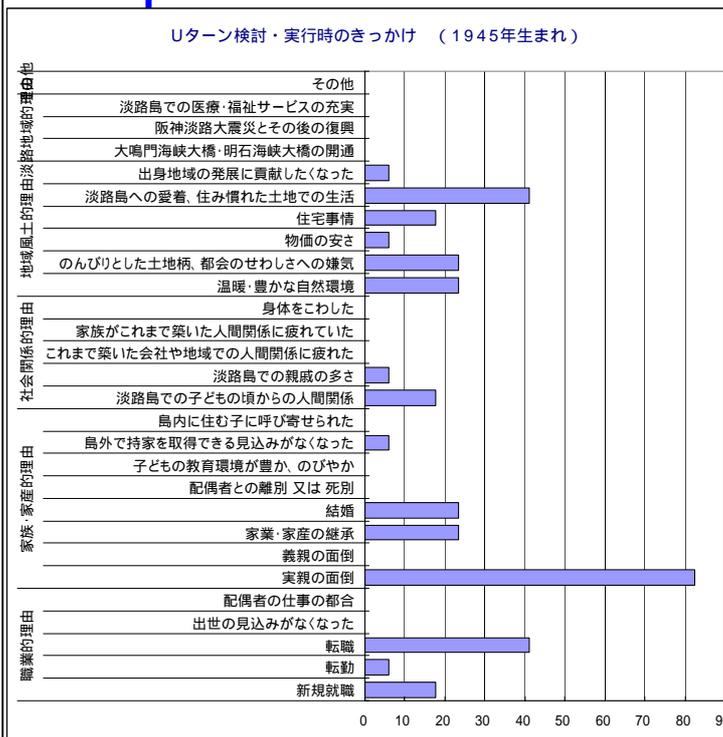


アンケート結果
より作成



Uターンのきっかけ・差し障り

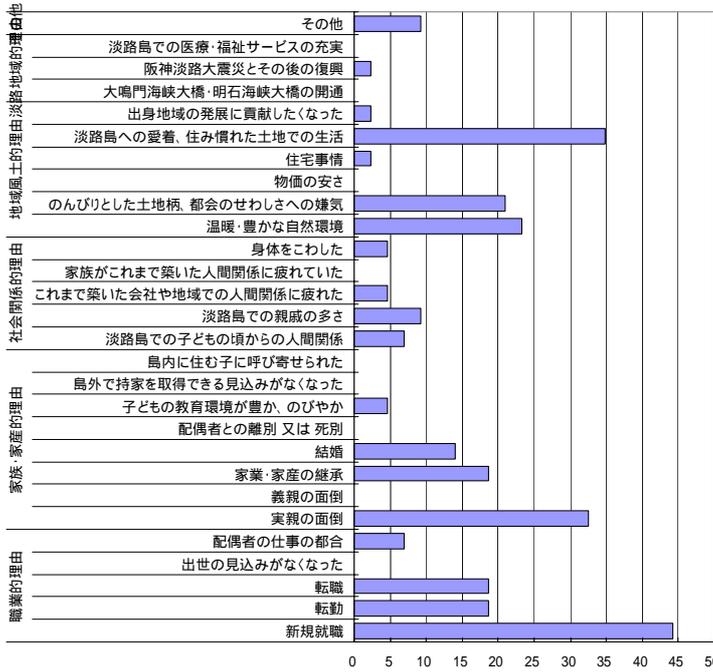
16期生 (1945年生まれ)



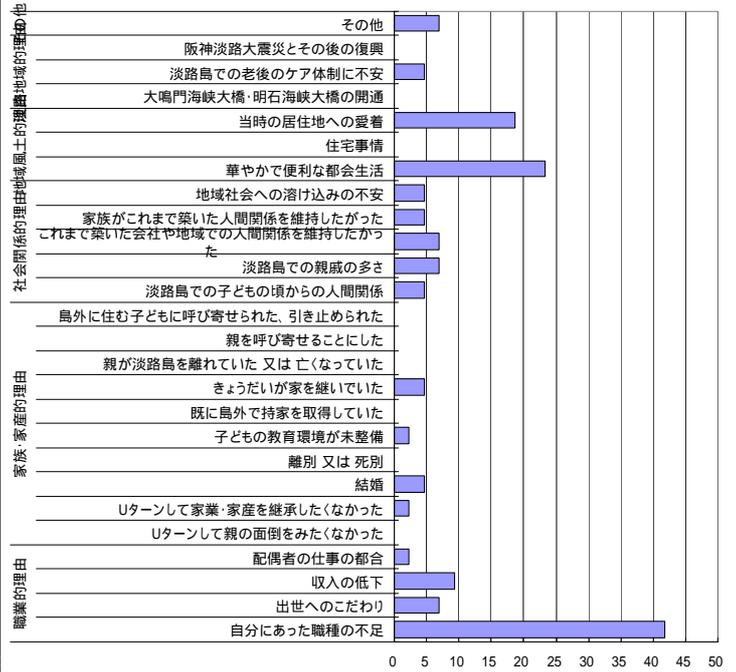
Uターンのきっかけ・差し障り

26期生 (1955年生まれ)

Uターン検討・実行時のきっかけ (1955年生まれ)



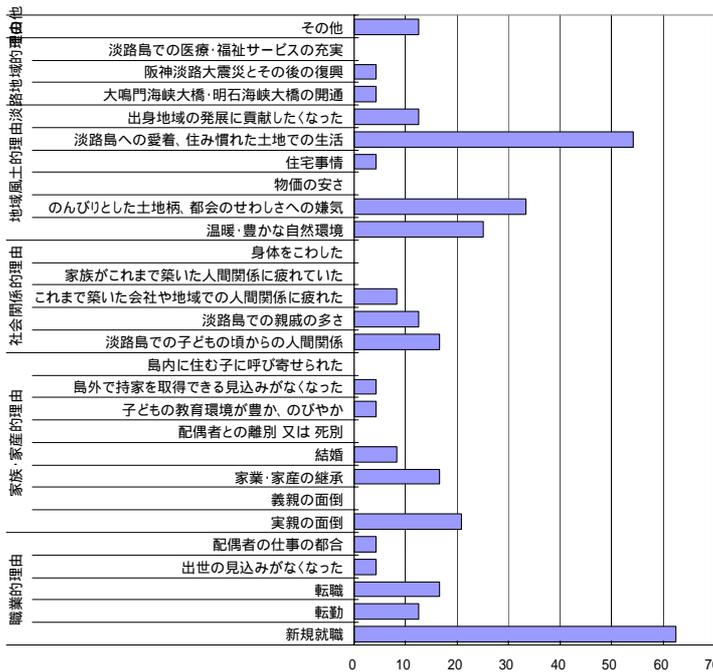
Uターン検討・実行時の差し障り (1955年生まれ)



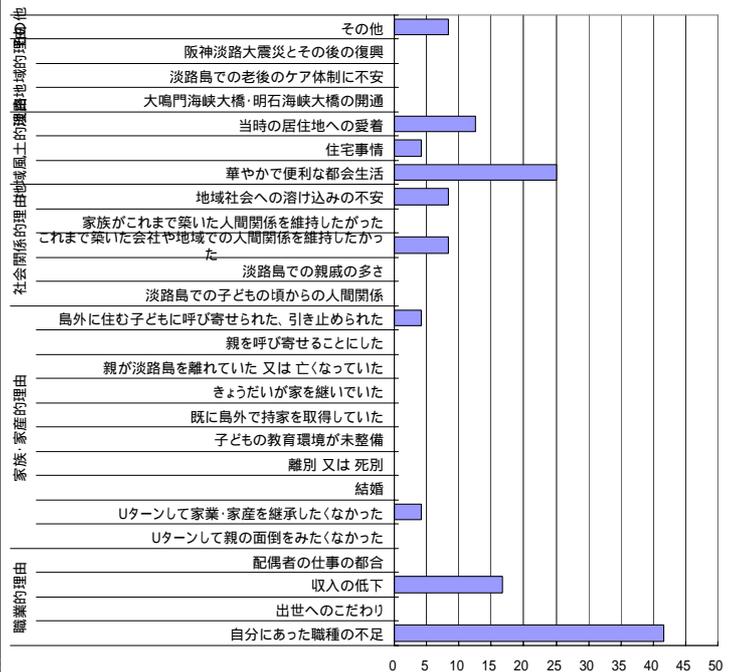
Uターンのきっかけ・差し障り

41期生 (1970年生まれ)

Uターン検討・実行時のきっかけ (1970年生まれ)



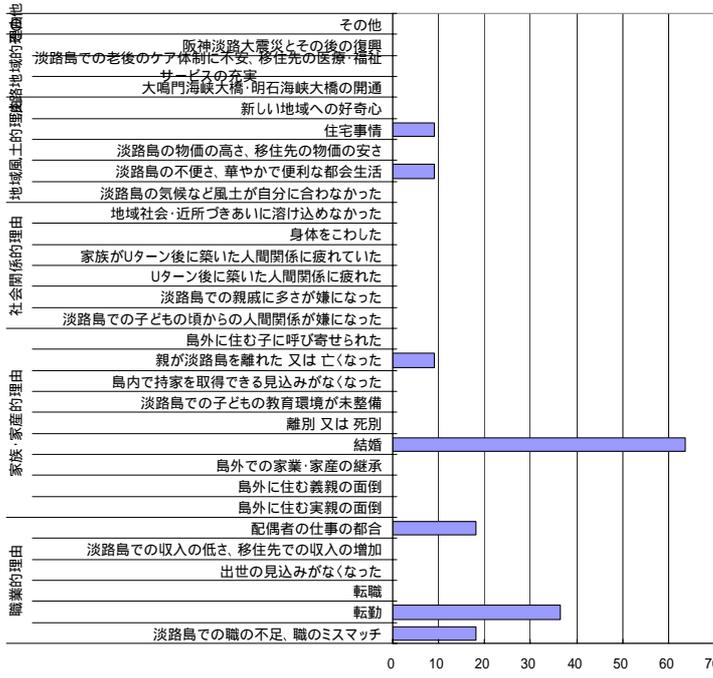
Uターン検討・実行時の差し障り (1970年生まれ)



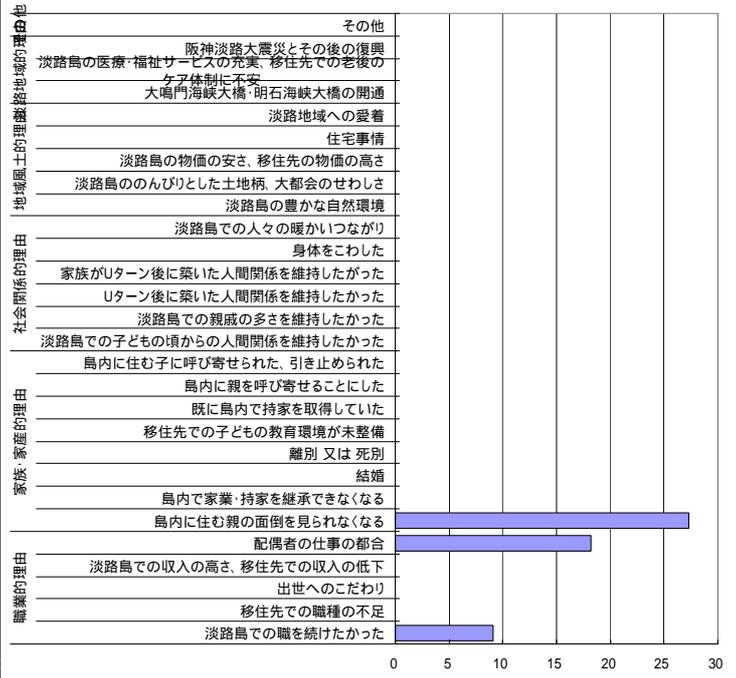
島外再流出のきっかけ・差し障り

全体

島外再流出検討・実行時のきっかけ（全体）



島外再流出検討・実行時の差し障り（全体）



ヒアリング可能者

	島内継続居住	Uターン非実行	Uターン実行	島外再流出	その他	計
1945年生まれ	2	9	2	0	0	13
1955年生まれ	0	5	6	1	0	12
1970年生まれ	0	1	1	0	1	3
計	2	15	9	1	1	28

居住パターンによる内訳

兵庫県	淡路島内	13
	神戸市	2
	姫路市	1
	三木市	1
大阪府	大阪市	2
	堺市	1
	枚方市	1
	豊中市	1
	寝屋川市	1
	阪南市	1
	神奈川	1
神奈川県	横浜市	1
	藤沢市	1
静岡県	焼津市	1
栃木県	佐野市	1
計		28

居住地

修士論文構成案

『人口還流現象の実態とその要因に関する研究 -兵庫県淡路島を事例に-』
 一 修士論文構成案

兵庫県立大学大学院 政策メディア研究科 修士課程
 片桐 暁史 / Aki Kato Hologari

作業
 01 研究の背景・目的
 02 研究の位置づけ及び方法
 03 論文の構成

第1章 淡路地域の概況把握
 1.1 人口動態
 1.1.1 総人口と人口構成
 1.1.2 自然増減と社会増減
 1.1.3 世帯別に見た人口の流出
 1.2 産業構造と通勤・通学による人口流出
 1.2.1 産業構造と通勤・通学による人口流出
 1.2.2 総人口・世帯人口と産業構造・就業形態
 1.2.3 世帯別に見た通勤・通学による人口流出
 1.3 自治体の取り組み(その可能性と課題)
 1.3.1 兵庫県淡路島市
 1.3.2 三島市
 1.3.3 東播磨
 (1.3.4 豊前町・三ツツアオボトビレッジ)

第2章 地方圏出身者の還流行動 - 同窓会名簿分析による調査結果
 2.1 淡路地域へのUターン動向
 2.1.1 コミュニティ別による比較
 2.1.2 年代別による比較
 2.1.3 職業別による比較
 2.1.4 調査年度による淡路地域内移住との比較
 2.2 他地域への流出動向
 2.2.1 コミュニティ別による比較
 2.2.2 年代別による比較

第3章 地方圏出身者の還流行動 - アンケート調査の結果から
 3.1 アンケート調査概要と回答者のプロフィール
 3.2 Uターン者の量的把握
 3.3 Uターン性向と属性
 3.4 Uターン発生メカニズム(誘引・阻害要因)
 3.5 Uターン実行者の地域活動
 3.6 Uターン実行後の再流出
 3.7 地方圏出身者の向かう先

第4章 地方圏出身者の還流行動 - ヒアリング調査の結果から

第5章 考察
 5.1 淡路地域・地方圏の置かれた位置
 5.2 地方圏出身者の還流実態とその要因
 5.3 人口還流政策への示唆とその可能性

表と図表
 参考文献
 補遺 アンケート調査結果集計表

序章

- 0.1 研究の背景・目的
- 0.2 研究の位置づけ及び方法
- 0.3 論文の構成

第1章 淡路地域の概況把握

- 1.1 人口動態
- 1.2 産業構造と通勤・通学による人口流出
- 1.3 自治体の取り組み

第2章 同窓会名簿分析

- 2.1 淡路地域へのUターン動向
- 2.2 他地域への流出動向

第3章 アンケート調査

- 3.1 調査の概要と回答者のプロフィール
- 3.2 Uターン者の量的把握
- 3.3 Uターン性向と属性
- 3.4 Uターン発生メカニズム(誘引・阻害要因)
- 3.5 Uターン実行者の地域活動
- 3.6 Uターン実行後の再流出
- 3.7 地方圏出身者の向かう先

第4章 ヒアリング調査

第5章 結論

- 5.1 淡路地域・地方圏の置かれた位置
- 5.2 地方圏出身者の還流実態とその要因
- 5.3 人口還流政策への示唆とその可能性

今後の予定

淡路地域の概況整理
済み

Uターン動向把握
済み

アンケート調査

実施 済み
分析 ~ 2003.12

ヒアリング調査
~ 2003.12

考察・修士論文執筆
~ 2004.01